

第 1 回 北九州市孤独・孤立対策等連携協議会 会議録

1 開催日時

令和4年2月18日(金) 13時30分～15時00分

2 開催場所

場所:ホテルクラウンパレス小倉 3階 ダイヤモンドホール

3 出席者等

(1)参加団体(敬称略、五十音順)

- ◆NPO 法人 老いを支える北九州家族の会
- ◆社会福祉法人 北九州いのちの電話
- ◆北九州シェルター
- ◆公益財団法人 北九州国際交流協会
- ◆社会福祉法人 北九州市社会福祉協議会
- ◆北九州市障害者基幹相談支援センター
- ◆北九州市ひきこもり地域支援センター「すてっぷ」
- ◆一般財団法人 北九州市母子寡婦福祉会
- ◆子ども食堂ネットワーク北九州
- ◆子ども・若者応援センターYELL
- ◆NPO 法人 チャイルドライン北九州
- ◆認知症・草の根ネットワーク
- ◆NPO 法人 フードバンク北九州ライフアゲイン
- ◆福岡県協力雇用主会
- ◆NPO 法人 抱樸

(2)行政関係者(課長以上)

市長、副市長、保健福祉局長、地域福祉部長、地域福祉推進課長、計画調整担当課長、精神保健福祉センター所長、地域移行担当課長、男女共同参画推進課長、子育て支援課長、児童育成担当課長、教育相談・連携担当課長

4 議事内容

(1)各団体参加者からの自己紹介

参加者より、所属する団体についての紹介を行った。

(2)行政からの説明「北九州市孤独・孤立対策等連携協議会について」

地域福祉部長が、資料「北九州市孤独・孤立対策等連携協議会について」に沿って説明を行っ

た。

(3)意見交換 テーマ:「関係団体の連携を目指して」

団体間での支援を繋げていく方策、団体間での情報共有や情報発信、各団体の支援者の人材育成、など活動を行っていく上での具体的な団体間での連携について意見交換を行った。

【主な意見】

- ◆各団体の連絡先やどんな活動をしているのか、具体的な情報があると、情報提供のミスマッチが起きなくてとても助かる。
- ◆支援対象者の健康上の問題等が発生した時に連携できる医療機関があるとよい。
- ◆実際のケースを想定して、関係する各団体の支援者が具体的な話をしながら、顔の見える関係で連携していくことが必要。
- ◆孤立・貧困についてのノウハウの蓄積をするような研修の場も必要と考える。
- ◆子ども・若者分野では、10年前から「子ども・若者支援地域協議会」を年数回の頻度で開催し、ケース会議等を行いながら顔が見える関係性を作っている。
- ◆青少年課において、支援者向けには「北九州市子ども若者支援機関ブック」、相談者向けには「子ども・若者支援機関マップ」を作成し、支援に活用している。
- ◆ひきこもりの若者支援においては、「ひきこもり→社会参加→就労」といった相談者の状態に応じて、各支援機関が階層構造で、切れ目なくリレー形式に支援を実施することで、孤立している人を「見つける」ことがさらに進んでくると思う。
- ◆福祉協力員や民生委員がつないだ後、つないだ方がどうなったか、可能な範囲でいいので情報共有したり、できなくても感謝を示してもらえれば、活動している方のモチベーションを保つことができる。
- ◆北九州市で子ども・若者を対象とする電話・チャットによる相談事業に取り組んでいる団体と情報共有をして、隙間が発生しないように、それぞれの役割分担の確認や子どもの状況を話し合う機会、意見交換の場を設けてほしい。
- ◆ボランティアの中には、相談を聞く中で過去に自分自身が経験した辛い出来事を思い出して辞めてしまう人もいる。活動内容についての研修だけではなくて、自分自身のストレス防止や自己ケアの研修が必要だと思う。

- ◆困っている人にとっては、本当に話し相手になってくれる人の存在が大事。丸ごとその人の話を聞いて受け入れる。寄り添うことができる居場所づくりが大切。
- ◆この協議会で様々な分野の団体との出会いにより、アイデアが生まれ、さらに、定期的なものだけではなく形の連携にしていきたい。
- ◆各団体の活動内容や連携できる内容について、一覧にまとめると、どこに相談したらいいかわかりやすい。
- ◆過去に自分が詳細を知らない団体に相談者を紹介して、相談者が傷ついてしまうという事例があった。この協議会に参加している団体同士はもちろん、各団体がすでに連携しているような信頼できる団体の紹介が責任ある紹介につながっていく。
- ◆食べ物は人と人をつなぐ、相談したくなるような信頼関係を作るツールになるので、ぜひ寄付された食品を使ってほしい。
- ◆孤独・孤立にもいろんな悩みがあり、どこに相談に行けばいいのかわからないので、行政においても孤独・孤立に関するいろんなケースを受ける窓口一覧を作してほしい。
- ◆どこにも繋がっていない、見えないところにいる孤立している人を支援するにはアウトリーチが大切。
- ◆差別する社会、排除社会なので、保護観察者などを守るためにも差別や偏見の話を真正面から打ち返す必要がある。
- ◆この協議会の今後の目指す方向性として、
 - ①各団体及び行政の仲間づくり
 - ②支援を具体的ににつなげていくための仕組みの構築
 - ③実際のケース対応をこなしていくことを期待している。
- ◆知識や技能だけでなく、繋がる支援、伴走型支援のための人材育成や研修が必要。